



(信楽座代表) 山田 浩之さん

未来のこどものために 文化の力を

「信楽座」とは、信楽を拠点に活躍する若手芸術家たちが、新しい手法でまちづくりを始めようと立ち上げた団体で、まちなかを舞台としたアートイベント「信楽ACT」をこれまでに四回開催し、信楽の魅力を市内外に発信してきました。

自身も陶芸家であり、「信楽座」を主宰する山田浩之さんにお話を伺いました。

Q 1 「信楽座」の目的を教えてください

全国的に元気がなくなってきている地域が多くなってきていると思いますが、信楽では陶芸で培われた文化の土壌を使って、まちづくりができないかと考えました。

Q 2 具体的にはどのようなまちづくりですか

「信楽ACT」という信楽のまちなか自体を展示場とする催しを開催し、全ての人に、より身近に芸術を感じてもらえるためのまちを創ろうと考えています。また、この活動のテーマとなる芸術や人、そして産業との関わりを表現した本の出版等、多方面で活動しています。

Q 3 この先、どのような活動を考えておられますか

この活動を始めて5年経ちますが、やっと形が見えかけてきたところです。小さな活動であっても、続けることによりやがては周りに伝わり、将来的には甲賀市から世界に文化を発信できるようになることを夢見ています。

Q 4 「信楽座」の魅力は

「信楽座」の仲間は、30～40年後の子ども達が誇れる、文化溢れるまちを残すことを考え、熱い想いを抱き作家達がボランティアで集まり、活動しています。今後も、みなさんの応援をよろしくお願いいたします。



陶芸作品「つち大根」などの山田さんの作品



第10回みなくち チャリティーゴルフ大会

恒例となっている「第10回みなくちチャリティーゴルフ大会」が5月5日、開催されました。この大会は、毎年行われているもので、10回目を迎えた本大会には市内各地から189名が参加し、五月晴れの絶好のコンディションの中、それぞれがプレーを楽しみました。この大会で参加者から寄せられた善意は、甲賀市の教育にと山本教育長に贈られました。



▲寄せられた浄財を受け取る山本教育長[右]

子どもの日に贈る善意

恒例となっている「第10回みなくちチャリティーゴルフ大会」が5月5日、開催されました。

黄色い迷路で楽しいひと時

「鹿深の杜」菜の花畑

伴谷保育園・幼稚園の園児ら約100名が4月24日、NPO法人「鹿深の杜」が運営する農園内の、菜の花畑を訪れました。

園児たちの背よりも高く育った菜の花畑は、迷路遊びの格好の場所になり、かくれんぼや、かけっこを楽しみながら、黄色い一色に染まった畑の中で元気いっぱい歓声をあげていました。



菜の花畑で ▶ 歓声をあげる園児



元気なまちなか

ケンケトケンケン お囃子にのって

「ケンケト祭」が5月3日、土山町前野の瀧樹神社で行われました。この祭では、伝統の「ケンケト踊り」が披露されますが、発祥は1489年に地元有力者であった頼宮氏や、岩室氏らによって創作されたと伝えられています。

ケンケト祭

この踊りの主役は、地元の三区(石室・徳原・前野)の小学生から交代で選ばれます。踊り子達は、孔雀の羽をあしらった美しい被り物と鮮やかな色彩の衣装に身を包み、棒を持ってステップを踏むような軽やかな動きの踊りを見事に披露していました。



▶ 熱狂に包まれる「花は」

信楽焼で地酒を堪能

ほろ酔いうつわと地酒展

陶芸の森信楽産業展示館で、4月1日から5月6日までの間「ほろ酔いうつわと地酒展」が開催されました。

今年四回目を迎えたこの展示は、地域の方々の努力や、展示を訪れた人々の口コミによって、閉幕までに総勢8000名を超える来場者を迎えました。

また、今回初の試みとして、甲賀・湖南地域の12の酒蔵が本展示にコラボレーションした「甲賀の地酒 きき酒会」が5月3日、開催されました。訪れた人々は、信楽焼の酒器で味わい深い地酒を堪能していました。



▲展示会場できき酒を楽しむ来場者

川と桜と鮎河菜と

鮎河小学校お花見給食が、4月24日、美しい桜の木々が春の訪れを告げるうぐい川で実施されました。

鮎河小お花見給食

約30名の児童は、桜の木の木漏れ日の中で食事を楽しみました。また、この日はご当地野菜である「鮎河菜」のお漬物が振舞われ、地元伝統の味に児童達も舌鼓を打っていました。うぐい川の桜は、同校卒業生が昭和56年から毎年、記念植樹しているもので、今では約200本が咲き競う市内の代表的な名所となっています。



▲川の辺、みんなで春を満喫